

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0194600276-00&ServiceCd=320&Type=search

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念である、「地域の方々の生きるを支援し、心身ともに健やかで、心地よい生活が出来る様努めます」を、念頭に揚げて職員一同利用者様に寄り添い生活支援を行っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、十勝大橋近くの閑静な住宅街に立地し鉄筋コンクリート造2階建てで、敷地内には介護付き有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念や目標を掲げ朝礼時に職員間で共有し実践につなげている	法人の理念をもとに各事業所は1年毎に見直しを行っている。今は「一人ひとりに寄り添う介護」を理念として朝会時に唱和を行い職員はケアに反映している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	、町内会や保育所など地域との交流の自粛していますが、コロナ禍の影響が続く中実践できていない。	町内会に入会し行事や活動に参加している。秋の芸能発表のお知らせが来ているので展示物などを見に参加する予定である。地域のアルツハイマーデーイベントに参加し利用者の作品を展示した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、認知症の方への理解や支援方法など地域の人々に話していますが、「世界アルツハイマーデー」に、展示物への参加を行っています。今後コロナ禍の経過をみながら、参加できる物は参加してゆきたい。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催していますが、コロナ禍の為書面開催が続いて居ます、貴重なご意見が出されている中日々のサービス向上に生かしています。	2か月に1度、書面開催している。行事、事故報告などをまとめて報告書作成し郵送、意見を返送してもらい議事録としている。町内会長、ボランティア、利用者家族代表、地域包括職員の参加がある。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会の委員として、又社内研修に講師として協力して貰っている。	介護保険の更新時の相談、事故報告書提出時、生保のケースワーカーとの情報共有を日常的に行っている。また、社内研修で成年後見について講師として来訪する等協力体制を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の朝礼時に身体拘束の目標を読みあげ身体拘束を行わない、意識付けを行っている。	定期的にチェックリストを基にグレーゾーンとなる言葉使いにも意識付けをおこなっている。人感センサーやチャイムにも必要性を検討しリスク管理と利用者の尊厳を考え適切なケアを目指している。	リスク管理をしながら身体拘束をしないケアを職員全員で丁寧に取り組み、理念としての寄り添う介護を深めていくことを期待する。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や、事業所内での委員会内でも言葉使いや対応に注意しあえる様に防止に努めている。			

グループホーム さくらの苑(ポピー)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修の中で、外部より講師を招き研修をおこない、各事業所の中で周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に運営規定契約書、利用同意書など一つひとつ、十分な説明を行い、疑問に思う事など説明し理解してもらったうえで契約しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の中、面会制限させて頂いている中、電話で状況説明を行う際に御家族の意見要望、苦情等を受け付けており事業所の運営に反映させる様努めています。	定期的な通信や請求書の送付に合わせて面会ができない部分を状況が伝わるように工夫している。苦情や要望に対しては早急に対応し改善を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議などで、意見や提案を出し合い、内容によっては、役職者会議上部の会議に議題として意見を出し検討して頂いている。	管理者は日常的に職員の意見や要望を聞く機会を設け、個別面接の際にも職員の意見や希望を把握し、事業所や法人で検討しながら、採り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に明記し 面談やアンケート等を通じ、意見や考えを聴取し、日々の努力や実績を法人に報告した中で、職場環境や勤務条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTチェックの面談を実地し一人一人の、目標を持って仕事に取り組んでもらえる様図っている、今年度は、コロナ禍の中様子を見ながらZOOMを交え社内研修の取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ対策の中、研修等ZOOMなどで、研修に参加しているが同業者との交流は行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の段階で、本人にとって何が一番不安に思っているのか、要望や、思いに寄り添い安心してもらえる様努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に置いて家族の不安や、要望など耳を傾け関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望を踏まえ、本人のADLや環境の変化もあるうえ、必要としている事を見極め支援に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は、自主的に毎日の日課と思っている方もおり、洗濯物干し掃除、感謝の声掛けを忘れる事なく接しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の中、面会制限していますが、近況報告のお便りや、家族との連絡を密にとり家族職員の関係深めて行ける様努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話で会話できる方は、いつでも電話連絡出来る様にしており、手紙など届いた方など代筆したり支援しています。	コロナ禍の状況に合わせて窓越しでの面会を行っている。友人や家族への手紙を代筆し馴染みの関係性を継続している。馴染みの訪問理美容が来訪し利用者はおしゃれを楽しめるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーションなど、孤立しない様、職員が間に入り配慮しています。利用者様同士でも、面倒を見て差し上げないとならないとの思いの方もいる為、行動に注意し事故の起こらない様、様子を見ています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了しても、家族との相談は必要に応じている為、相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、思や意向の把握に努め、支援に生かしている。	日々のケアの中で、利用者の思いや希望などを把握できるようにしている。把握した情報を基に、その人らしい楽しい生活ができるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	思い、習慣に寄り添い状況を見て出来る限りその人らしく生活できる様介護計画に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの行動、精神状態の変化を把握しケア会議の中で、一人一人の対応に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の想いや家族の想いを精査しケアに反映出来る介護計画を作成している。	家族や利用者の意向を取り入れながら、モニタリングや会議で出た意見を基に、6ヶ月で見直しして介護計画を作成し家族の承認を得ている。状況に変化があればその都度見直し対応している。	日常的な生活の場でコロナ禍による外出自粛が利用者にとって肉体的・精神的な面に影響があると思われるため、現状に即した介護計画の再見直しを行っていくことを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや、行動など介護記録に記入し職員間での情報把握と介護計画に取組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いつもと違う行動や言葉使い等に注意し、記録に落とし、職員間利用者の精神状態に柔軟な対応が出来る様取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為近隣の保育所や、小学校や町内会の関わりは出来ていないが、今年度は「世界アルツハイマーデー」のイベントで、制作展示に参加行いました。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族は、かかりつけ医については納得されており協力病院での往診の結果など異常がある時など家族へ報告し、利用者様の健康管理を行っております。	協力医療機関の訪問診療が月2回定期的であり、看護師による利用者の健康管理をしている。希望する専門医の受診は家族が同行するなどして支援している。提携薬局と連携し服薬しやすい配慮も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の血圧測定、と酸素飽和度の測定、その時の状態に合わせて血圧測定の再測を行い、看護師の指示を受け日々の健康管理の把握に努めています、		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院時のICには、医師・相談員・看護師・家族、施設看護師との早期の退院に向けて、病院との連携を取っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の際に重度化に至る時、状態の変化ある時など、ホームで出来る事、出来ない状況の説明は家族へは、十分に説明は行っていません、特に身体状の変化ある時など、再度出来る事と出来ない事を説明行っている。	契約時に利用者と家族に重度化や終末期についての方針を説明している。看取りは原則行わないがギリギリまで事業所でできることを検討し繰り返し話し合い医療関係者とチームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に緊急時の対応の勉強会を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回の施設内の機器説明、水害、災害時の避難訓練、緊急時の呼び出しや、夜間想定訓練、自家発電の設置による対応説明の訓練を行っている、コロナ禍の為地域との協力体制の訓練ができていない。	年4回の避難訓練や複合災害を想定した訓練等を実施している。同時に対応マニュアルや消火器などの使用方法を学んでいる。3日分の備蓄、ガス、自家発電機など備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシー・尊厳に配慮し、声掛けの仕方にも、なれ合いにならない様職員間での注意をしあえる様にしています。	利用者に対して制止するような言葉かけを行わないよう気をつけているほか、呼び方にも配慮している。トイレ誘導や入浴時など、傷つけないように利用者に優しく接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間に何を飲みたいのか皆さんに聴いてから提供するときもあり、衣服など選択できる方には選択できる様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課などの声掛けお誘いは行うが利用者様の体調にもより無理強いする事なく、支援させて頂いています。レクリエーション等関わる時間を作り		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は2か月に一度定期的に来る事になっており、パーマを掛けたい方いる為、御家族と相談しただけ、ご本人の希望をかなえられる様に支援させて頂いています。		

グループホーム さくらの苑(ポピー)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人厨房が作って下さり利用者様への提供時に、その人に合った刻みや、粥食、ミキサー食にあわせ提供しています。行事の「出前や自由献立」の時に食べたいもの等、意向を踏まえ提供するようにしています。自主的にテーブルを拭いてくださったり、しています。	母体法人より献立や食材が提供され、栄養バランスに配慮した食事提供を行っている。利用者との日常の会話の中から好みに応じた行事食や誕生食などを取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養面では法人の栄養士が考えてくださり、毎日の水分摂取量、バイタル測定、排泄が確認できる用になっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、口腔内の残渣の確認、磨き残しなどに注意介助しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の尿意や排泄パターンを把握し、出来る限り自立して出来る事は、転倒事故に注意し、見守の中支援しています。	利用者一人ひとりの排泄チェック表により排泄パターンを把握して、日中は何気ない声かけを行ない、トイレ誘導して排泄の自立支援をしている。下着や衛生用品の使用は随時検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす状態の説明と、水分不足の影響を、利用者への説明、血圧の上昇、発熱の原因となる事の把握し食物繊維等の接種を心がけ体調管理表を活用し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、決めているが、利用者の体調や、タイミングを見て入浴の支援はしています。	週2回を目安に入浴している。入浴が苦手な利用者には入浴時間や曜日、職員などを変えながら入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時には安心して休める様雰囲気作りと声掛けをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時に落薬防止の為にスプーンを使用し服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設の日常生活の中で、食器洗いやテーブル拭き、洗濯物干しのお手伝いをして下さったり自分の役割と認めて下さっている。個人の嗜好品を、購入しおやつ時に食べて頂いている。		

グループホーム さくらの苑(ポピー)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中、外出行事は少ないが、少人数でのドライブや密にならない様、散歩や外出をするようにしている。	コロナ禍の状況に合わせて少人数でドライブに出かけ、新しい道の駅や季節を感じる風景を見に出かけている。近隣に散歩に出かけたり玄関に椅子を並べてシャボン玉やお茶会をして外気浴を楽しみ気分転換を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や必要なものは、家族にお願いしたり、する事が多い、外食の機会も少なく、お願いされた者は、購しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状態の変化ある時など、こまめに電話連絡したり、ガラス越しでの面会行っています。電話が出来る方は、お話をしてもらったりしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分達の居場所として理解している為、突然場所が変わると、不安を招く事がある為、大きな変化は、付けないようにしている。自分の場所がある事により、安心されている。	居間には3つのソファーが有り、そこには利用者が寛ぎながらテレビを観ている。壁にはイベントの写真や季節感ある飾り付けが飾られている。感染症予防の為に、温度や湿度の管理、定期的な換気を行いながら過ごしやすい環境に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様は、自分の部屋で過ごしたい方は、自由に行かれています。レクや、ゲームなど声掛けし一緒に行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や思い出のある物を持ち込まれ側に置き安心されている。	利用者の使い慣れた椅子を持ち込んだり家族写真を飾る等、心地よく過ごせるよう工夫している。ペットや家具の配置には転倒予防を考えて安全に暮らせるような配慮を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足腰の悪い方が多く(車椅子や歩行器など)、転倒予防に配慮し自操できる要歩行がしやす用にしています。		